



町長回誌

No.257

町長日誌の第257号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

3月17日 (月曜日) AM9:00

今日は「彼岸の入り」です。今年は20日がお彼岸の中日(ちゅうにち)で、前後3日間合わせて7日間を「お彼岸」と言います。曆的には「雑節」の一つで、春分・秋分を中日と呼び季節の変わり目を指しています。では、なぜ7日間もあるのかと言うと仏教では中日には先祖に感謝し、残る6日間は悟りの境地に達するのに必要な徳目を1日に一つずつ修めるため6日が必要なのだそうですがご存じでしたか? 私などはお彼岸と言えば「ぼたもち」を食べる日? 程度にしか考えていませんでした。また、農村地域では「社日(しゃにち)」という神事があり春・秋のお彼岸の時期に行われ、産土神(生まれた土地の守護神)にお供えをして豊穰を祈願します。この日は土に触れてはならない(耕してはならない)と子供のころ年寄りから教えられました。今でも農村地域ではこの風習は残っています。さて、もう一つ「彼岸荒れ」という言葉があります。彼岸の頃には天候が悪くなるという意味ですが、まさに今日は彼岸荒れのような吹雪模様です。太平洋側を中心に大荒れで休校やJR・バスの運休が多くなっています。興部はそこまでではありませんが毛ガニ漁が始まる矢先に真冬へと逆戻りです。しかし、考えてみればこの冬は吹雪が少なかったですね。

3月13日 (木曜日)

沙留には山根水産の前を通過して沙留霊園の向かう町道があります。霊園を過ぎると矢野川があり「丸屋橋」が架かっています。この橋のすぐ手前の舗装の路肩側から水漏れがあるとの通報があり職員が向かい確認しました。1時間当たり3トンの漏水とのことで、漏水としてはそれほど大きくなく直ぐに改修工事を行いたところですが、この場所には興部から来る鋳鉄製の太い送水管と沙留市街に水を配る配水管が交差している場所で、機械で舗装や土砂を剥くとこれまで土砂などで抑えられていた水道管の亀裂が圧力から解放され一気に破裂する可能性が高いことから、先にバイパスを作り、亀裂部分の水圧を無くしてから改修したいというのが水道担当者の見解でした。さらには、亀裂があると思われる水道管は直径200mmと太く、現在あまり使われていないこともあり業者に問い合わせたところ1週間後の20日でなければ工事が出来ないという事態になりました。しかし、いつ断水に繋がる事故が起きるかわからないことから14日には職員の手により備えをお願いするお知らせを配布させていただきました。

この配水管は沙留全域に水を配る管ですから修繕が間に合うことを願うばかりです。なお、興部市街などでもこの200mmの管を使用していることから、予備の管などの手配も今回行い今後の突発的事故に対応したいと考えています。

3月は卒業、退職、転勤などの季節です。役場は昨年から定年が1年延長され10年をかけて65歳まで定年が延長されます。今年は4名が定年を迎えます。長い間様々な部署で頑張ってくれた職員に感謝です。高校を卒業し他所の町に進学や就職をする人、転勤で町を離れる人など様々ですが皆さんにとって新年度がより良い年となりますようお祈り申し上げます。では、また。



お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務係まで。TEL 82・2131です。

